

三水会会報

北里大学海洋生命科学部
同窓会会報 第 83 号

令和4年3月発行
(2022年)

編集者 内藤 文隆

発行 三水会(北里大学
海洋生命科学部同窓会)

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル
0120-873-135

目次／	P.1	児玉先生を偲んで／研究紹介	P.5
生きたシーラカンスを求めて	P.2	学部創設50年にあたり	P.6
ウニと藻場の循環型再生産	P.3	2021年度就職ガイダンス報告	P.7
着任のご挨拶	P.4	お知らせ	P.8



浦浜2020. 2. 11



首崎灯台



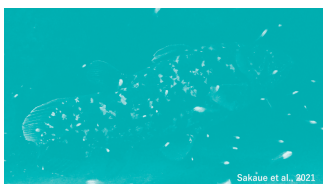
浪板から浦浜を望む

写真提供：朝日田卓教授

我が学部を卒業、あるいは修了した人ならまず知らない人はいないであろう魚。魚にそんなに興味がない人でもその存在、最低でも名前くらいは知っているであろう魚。サバやアジなど食卓に上がる魚ではないのにこれだけ知られている魚もいないであろう。しかし、その生態が殆ど知られていない魚。それがシーラカンスである。

1938年に南アフリカのイーストロンドン沖で奇妙な魚が漁獲され、その報告を受けたラティマー女史が簡単なスケッチを南アフリカロードス大学のスミス教授に送った。そのスケッチを見て驚愕したスミス教授は早速現地に飛んだ。博士が残ったサンプルから、その奇妙な魚はそれまで化石でしか知られていなかったシーラカンスの原生種だと翌1939年に報告し、生きた化石として世界的に知られたのは有名な話である。

月日は流れ、そのシーラカンスの生きて泳いでいる姿が捉えられたのは奇しくも自分が三陸で大学に通っていた1988年の時。立派な各々ヒレを拡げた。その写真を初めて見た時の衝撃は今でも鮮明



閉じた状態のヒレをくすくすしたリラックスしたシーラカンス

に覚えている。某科学雑誌の付録であったシーラカンスのポスターを横浜のアパートの壁に貼り付け毎日眺めたものだ。当時潜水部に所属していたこともあって「こんな魚、潜って自分で見られないかなあ」と憧れた。しかし彼らの生息域や生息深度を鑑みるととてもダイバーの行ける水深ではない。それでも簡単には見られない憧れの魚であった。

その後も潜水艇による調査が行われたり、漁獲されたシーラカンス標本による生理学的な研究や分子生物学的な研究は各国で進められたりした。日本からも1981年以降数回にわたり学術調査隊と称してシーラカンス捕獲チームがコモロ諸島周辺を訪れている。しかし、それでも生態的な側面は依然として謎なままであった。それから月日は流れ10年後。それまではコモロ諸島周辺がシーラカンスの生息地として有名であったが、インドネシアでも別種のシーラカンスが発見された。その後、環境水族館アクアマリンふくしまの調査によって生きたシーラカンスはおろか幼魚の映像まで捉えられたのである。

更にその2年後の2000年。南アフリカ東岸でテクニカルダイバーにより生きたシーラカンスが潜水水中に目視されたのである。このタイミングではまだ世界中にその事実は大きく知られていなかった。その後フランスの学術調査チームが同じ場所で大々的な調査を行い、この生きたシーラカンスの映像を世界中に広めたのは記憶に新しい。ダイバーが行ける水深でシーラカンスが見られた

というその事実にも自分も相当な衝撃を受けた。その後、同エリアでの調査や研究は進められたが、個体識別や移動範囲などが判った程度。生態的には断片的でさほど大きな進展はなかった。

そんな折、日本人チームで生きたシーラカンスを見たい！と発案した人物がいた。この人物は先日発表した論文の共著者でもあり、今回の調査チームリーダー、そしてスポンサーでもある前田和彦氏。氏はシーラカンスを日本人チームで見たいという野望から個人プロジェクトを成功させるべく精鋭メンバーを集めたのである。自分もダイビングスキルや、その経歴、また魚類の生態などに精通しているということと白羽の矢が立ち、調査メンバーに検討段階から加わった。これが2014年のことであった。

この精鋭メンバーには我が大学の名誉教授でもある井田 齊先生も選出されている。それから調査許可を得るために紆余曲折があったがなんとか2017年度に1回目の調査を行えることとなった。せっかく掴んだチャンス。自分の専門は魚類の生態・行動研究である。これは今までアプローチした人々がやらなかったことをやらねば！と現地入りするまで策を巡らせた。とは言え、シーラカンスの生息する水深にいられるのも精々12分程度。仮にそこにシーラカンスがいたとしても、ただいるのを眺めるだけで終わりだ。それでは既存の調査と変わらない。そこで古典的手法ではあるが、特殊潜水器材

を用い流向流速計や定点カメラを設置して自然なシーラカンスの生態を抑えようと目論んだのである。そして、決して楽ではなく困難な調査ではあったが2018年7月に現地調査を終え貴重なデータを取得することが出来た。そして、満を持して今回の論文を上梓することが出来たのである。タイトルは「New Insights About the Behavioral Ecology of the Coelacanth Latimeria chalumnae Video Recorded in the Absence of Humans Off South Africa」。訳すと「南アフリカにおいて人為的影響の無い状況下で記録されたシーラカンスの生態行動の新知見」である。

今回の調査で判明した点を簡単に説明すると、水温がある程度低い状況でないとシーラカンスは浅い水深には上がってこないということ、夜行性であると認識されてきたが昼間でも生活圏を移動していること、今まで周知されていた生きた化石の象徴としてのシーラカンスがヒレを広げている姿は実はストレス下にあるということであった。簡単にいうとROVや潜水艇、あるいはダイバーが煌々とライトを点灯してシーラカンスにアプローチしている状態はシーラカンスにとっては極度のストレス状態となっているというのが論文の肝なのだ。つまり自分が学生時代に憧れていた



水深113mの地点に調査機器を設置する筆者

たボスターのシーラカンスは正にストレス下であり、自然な状態ではなかったのである。つまり、調査・研究の基で行われた行為も対象種にインパクトを与えていた可能性は大きく、今後におけるシーラカンスの生態調査をするにあたっては人為的影響のない状況でアプローチすることが生態調査として肝要であると提言したものである。それを今後の調査者達が意識するかしないかはそれぞれの判断となる。まあ、簡単にアプローチ出来る水域ではないので、今後も既存の調査法が主流になるとは思われるが…。

論文の細かい内容について興味のある方は下記のサイトを参照されたい。
<https://www.frontiersin.org/articles/10.3389/fmars.2021.755275/full>

現在世界中がコロナ禍に見舞われている状況から海外渡航が非常に厳しい制限を受けている。この制約が解除された暁にはシーラカンスプロジェクトの2ndシーズンをスタートさせたいと目論んでいる。

ウニと藻場の循環型再生産

3FA 水鳥 純雄

私は、北海道の水産業普及指導員を定年退職した後、北海道の西に突き出た積丹半島に位置する積丹町で水産業技術指導員として勤務し次のような取り組みを手懸けています。

積丹町の主要産業は沿岸漁業で、特に「キタムラサキウニ」と「エゾバ

フンウニ」を対象とする「ウニ漁」で町の経済は支えられています。また、北海道内外から極上の「積丹ウニ」を求めて数多くの観光客が訪れ、6月から8月のウニ漁のシーズンには飲食店に長蛇の列ができる程の高い人気があります。しかし、ウニの生産量は、磯焼けによる実入り不足から不安定であり、高まる人気が供給量が対応できていないのが実状です。

そこで、積丹町の漁業者で構成された「水産多面的機能発揮対策事業」の活動組織は「ウニの密度管理」「母藻設置」「栄養塩の供給」「モニタリング」などウニの餌となる藻場づくりの活動を行って成果をあげています。

一方、ウニ漁で「むき身」を生産すると「ウニ殻」が排出されます。これまで一般廃棄物として処理していますが、この量は町全体で年間100トン前後にもなります。そこで、町はこの「ウニ殻」の有効活用を模索するため産学官のプロジェクトを立ち上げ研究を行いました。この中で養殖コンブでの成長比較試験を行ったところウニ殻に含まれる窒素やリンなどの成分が海藻の肥料に使えることが実証できました。

この結果からさらに藻場造成の「栄養塩の供給」に使うことを考えて試験を実施しました。まず、廃棄物を使用する試験を実施することから、地元の「東しやこたん漁業協同組合」の同意を得た後、廃棄物処理を管轄する積丹町から「加工処理して再生させたウニ殻は有価物であ



る」という判断を貫き、さらに、北海道水産林務部との協議を行い「水産系動物性残さの有効利用試験実施に関する要綱」の適用を受けないと

の結果を受けました。最後に、小樽海上保安部に試験の内容を報告して試験の実施が可能となりました。

次にウニ殻肥料の製造に移り、ウニ殻をブロック状に固めるために生物由来の天然素材であり、また、自然界で分解可能な「天然ゴム」を選定し、これを固形材として使用し「ウニ殻肥料」ができました。これを12月ホソメコンブの胞子が着生する時期に、磯焼けした漁場に設置して、翌年の5月に効果を確認しました。

その結果、「ウニ殻肥料」を設置した周辺にはホソメコンブ群落が形成され（写真）、対照区では全く海藻は着生していませんでした。「ウニ殻肥料」の効果が実証できました。

さらにこの経済効果を検証するために、ウニ殻肥料設置区と対照区それぞれからキタムラサキウニを採取し生殖腺の指数（生殖腺重量/全重量×100）と品質を比較したところ、生殖腺指数では約1.5倍、「むき身生ウニ」としての品質でも格段の差が見られました。つまり、生産量で約1.5倍の増となり、販売単価でも大きな向上が期待できることから、「ウニ殻肥料」による藻場造成で大きな経済効果得られることが検証できました。このように、ウニむき

身生産で排出されたウニ殻を使い、餌となる「海の森」を作り、そこで成長したウニで生産を向上させるという、「ウニと藻場の循環型再生産」が実践できました。

この「ウニ殻肥料」の特徴は、①ウニ殻（廃棄物）の有効活用。②漁業者自身で作成可能。③天然ゴムは市販品で入手が簡単。④原料は生物由来の天然素材で環境への負荷が無い。⑤ウニ殻肥料の形や大きさは自由自在。⑥ウニ殻肥料の作成と海中への設置に特別な機材を必要としない。⑦安価でかつ広域で実施が可能。このように「ウニ殻肥料」は海の施肥事業の革新的な省力化技術となります。

この「ウニと藻場の循環型再生産」が実践できると、さらに次のような効果も生まれてきます（図）。まずは藻場造成による安定生産・供給による「持続可能な漁業」が成立します。次に、ウニ殻の有効活用で「ゼロエミッション」も成立します。さらに、藻場によりブルーカーボンが機能し、また、生態系保全による生物生産増大効果もアップします。このように、「ウニ殻肥料」の取り組みは、SDGsの14番目のゴールとなる「海の豊かさを守る」に繋がるものとなります。

これらの取り組みは、令和3年3月3日東京



都で開催された「第26回全国青年女性漁業者交流大会で最高賞の「農林水産大臣賞」いただくことができました。地球環境を守りながら持続可能なウニ漁業を目指す積丹町の漁業者の活動は続きます。

着任のご挨拶

応用生物化学講座
水族機能生物学研究室 講師
上岡麗子

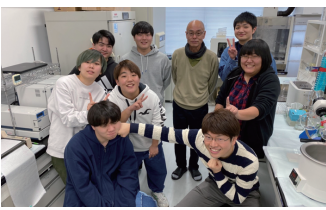


皆様はじめまして、2021年4月に水族機能生物学研究室に着任しました上岡麗子と申します。コロナ禍の騒動に紛れて着任してから執筆時点で早9か月が経過いたしました。3年生の学生実験を皮切りに、研究室で学生と研究をしたり、講義をしたりと初めてずくしの本年度ですが、周りの皆様の支えもあり今のところ無事に相模原生活を満喫しております。今回三水会会報にて皆様にご挨拶する機会をいただきましたので、自己紹介とともに少しこれまでの研究紹介などさせていただきますければと思います。

11月の終わり頃、MB号館の研究室フロアでは、来年度配属される研究室の希望をどこに出そうかと悩む学部3年生の見学者で溢れかえっております。卒業生の皆様にとってのも3年次の一大イベントだったので

はないでしょうか？私がいた大学では、入学した時点では研究室どころかまだ学部さえも決まっておらず、若かりし私は漠然と将来なにがしかの研究者になりたいとは夢見ていたものの、具体的にどの分野に興味があるのかもサッパリな状態でした。そんな折にたまたまぼんやり出席していた講義で、海の生き物から発見された新しい化合物が薬になりそうだという話や、自然界から人類の役に立つ面白い化合物を探そうという話を聞き、突然「これだ!!!」と稲妻が走り？研究室配属までドタバタ駆け抜けていきました。

皆様もこれまでに様々な薬をご購入されたことがあるかと思いますが、実はこれまでに承認された薬のうち約半数は、自然界（主に陸上植物や微生物など）から発見された二次代謝産物や、その化合物の構造を模した化学合成誘導体などであることが知られております。北里大学といえは、2015年に大村智先生がノーベル生理学・医学賞に輝かれましたが、受賞理由となった線虫感染症の新しい治療薬であるイベルメクチンも、元となった化合物であるエバメクチンは土壌放線菌の培養液から発見された二次代謝産物です。陸上の生き物には遅れ



2021年度水族機能生物学研究室

をとったものの、海の生き物に含まれる化合物からも実際に薬として承認されたものが出てきており、例えばホヤ由来の化合物であるエクテナサイジン743は2007年に悪性軟部腫瘍治療薬(Yondelis®)として承認され、また海綿由来の化合物であるハリコンドリンBの誘導体は2010年に転移性乳がんに対する抗がん剤(HALAVEN®)として承認されました。私も学部4年生での研究室配属後は、さまざまな海洋無脊椎動物の抽出物から各種がん細胞に対する細胞毒性を指標に新規化合物の探索を行い、まさにいづぞやの講義内容の通り、宝物探しに明け暮れる日々を送ることとなりました。

そのままた大学院に進み博士になった頃、世の中は次世代シークエンサーの出現とともにゲノム情報を用いた研究が活発に行われるようになっていました。これまで生物活性を指標として行われていた新規化合物の探索においても、ゲノム情報を用いた探索法の開発が行われるようになりまし。この方法では、ゲノム情報の中にある生合成遺伝子(代謝産物の設計図のようなもの)を解析することで、ユニークな化合物を生産しそうな生物をあらかじめ選別できるという画期的な利点があります。そこで私も、この方法を開発していた、当時ドイツのボンにあった研究室に博士研究員として学びに行くことにしました。唐突に日本を飛び出しドタバタと始まったドイツ生活ですが意外とすんなり慣れ、飲み

とても流暢に言えるようになった頃(これと「お持ち帰りにして下さい!」以外のドイツ語は特に話せません)、まさかの研究室ごとスイスに引越すことになりました。研究室の皆でドタバタとチューリッヒに移動したものの、研究室の実験機器が来るまでかなりの時間を要し、それまで何もすることがなくなつた私は、ひたすら「大きいビールを下さい!」の発音に磨きをかけることとなりましたが、今ではいい思い出です。そしてヨーロッパ生活8年弱を送り、その間あまり帰国することのなかった私は、このまま海外で生きていこうかと真面目に考え始めていたのですが、縁あってドタバタ日本に帰国することとなりました。帰国して早々、確か5%だったはずの消費税が10%になるらしいと聞いてびっくり返りました。そしてさらにまたドタバタと北里大学に着任することとなり、現在に至っております。

振り返ってみて、なんだか常にドタバタしている落ち着きのない私ではございますが、今後は教授の森山俊介先生と2人体制で水族機能生物学研究室を盛り立てていければと存じますので、皆様どうぞ温かい目で見守っていただけますと幸いです。また、卒業生の皆様におかれましては、関東にお越しの際はぜひ相模原の研究室にも遊びに来てください。研究室メンバー一同、OB・OGの皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

児玉先生を偲んで

3 F F 服部 恵子

2019年10月5日南浦和のとある居酒屋、盛り上がっています。児玉先生はじめ、お嬢様の亜子さん、緒方先生、奥様の京子さん、3期の生化学研究室の楽しき仲間6名が集いました。児玉先生はお酒もおつまみもよく召し上がり、話もたつぷり盛り上がり賑やかなひとときでした。

お目付役のお嬢様もはらはらなさっていらしたかと思えます。みんなの心はここ浦和ではなく三陸にありました。

私たちは昭和53年卒業、東北自動車道はまだ岩槻から南仙台まで開通しているだけで東京から10時間はかかりました。もちろん新幹線などなく、東北本線だけの時代です。東京に帰るには一関から各駅停車の夜行で帰った時代です。

でも三陸はなにかも新鮮でした。校舎も新しく、先生方も若い先



右から児玉先生・服部・遠藤・緒方先生

生が多く校舎から見渡せるリアス式海岸も学生たちをワクワクさせました。児玉先生はジャズもセミプロ級、文化祭を盛り上げ、ギター片手に颯爽と闊歩されていました。

そんな精錬された児玉先生でしたが、同期の女子学生たちにエピソードを聞いてみましたが、楽しい思い出の中に児玉先生は必ずニコニコしながら登場しているのですが、なぜかこれといったエピソードがなかなかみつからないのです。水産の女子学生は少ないということもあるのでしょうが、講義の質問の場以外では女子学生の輪に入って談笑しているのをあまりお見かけしたことがないのです。

児玉先生はいつもニコニコして男子学生の中心にいらつしやいました。そして率先して楽しいことをいたずらっ子のようになさってました。先生というより兄貴という存在でした。ちょっと高いトーンでねえねえ。お前ら知ってるか、からはじまる話も学術的なことから一般的なことまでとても面白く話してくださいました。その頃まだ知られていないタモリの話をいち早く面白く話してくれたのも児玉先生だったと思います。

また、私の聞き間違いでなければ、インスタントラーメンの発売より先に作っていたのかも聞いたような・・・また、児玉先生のご指導のもとで麻痺性貝毒の研究を卒業にいたしました。ただ単に研究材料のホタテが食べられるという不純な動機の学生でしたが、卒業してから何年

かあとにお会いしたときに、おまえらの研究が役に立ったんだよね！と笑顔で話してくださいました。

私達の稚拙な研究成果のなかが役に立ったのかわかりませんが、学生にあんなに喜んでくれる先生に感激しました。いつも学生と話するときは同じ目線で話して下さった児玉先生でした。

そんな良い時代の三陸の思い出に耽っているうちに寝もそろそろお開きのようです。

この集まりは若くして旅立った生の仲間の追悼の集まりでしたが、児玉先生にご連絡したところ、ご療養中にもかかわらず、「3 F F皆で集まろう、何処でも行くぞ」とおっしゃっていらしてくださいました。

ご療養中の児玉先生を送り出して下さった奥様、お付き添いしていただいたお嬢様に心より感謝いたします。

これからの集まりに児玉先生がいらっしゃらないのは寂しいかぎりです。でも、姿見せずとも集まりのときにはいらしてくださいているように思います。いつものように、おまえら元気か、と颯爽とあらわれ、そしていつものようにニコニコしてみんなの中心にいらつしやるんだらうと思います。児玉先生、是非いらしてください。みんな大歓迎です。

北里大学名誉教授・元北里大学水産学部学部長 児玉正昭先生は令和2年8月30日御逝去されました。

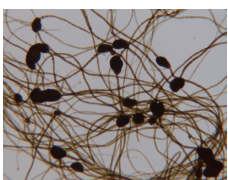
享年76歳、謹んでご冥福をお祈りいたします。

研究紹介／海藻マツモを巡る最近の話題について

沿岸生物学研究室 准教授 難波 信由

三陸の海藻と言えばワカメですが、豊かな三陸の海はワカメ以外にも多くの海藻を育んでいます。その一つマツモは、磯の香りと歯触りの良さを持つ三陸特産の春の味覚です。生の他に、板状に乾燥した干しマツモや、干して炙った焼きマツモなどに加工され、お味噌汁、お吸物、麺類、酢の物、サラダなどで食べます。松の新葉を思わせる形と、お吸い物などに入れた瞬間、鮮やかな緑色に変わって松の小枝を散らしたように広がることからマツモ（松藻）と呼ばれています。

東日本大震災後の岩手県のワカメ生産量17千トン前後に対して、マツモの生産量は6千トン前後と非常に少ないですが、この希少性もあって1000円〜1400円/kgほどの高値で取引される高級食材になっています。現在、三陸のマツモはすべて天然物です。しかし、震災前には種市の漁師さん達が共同で海辺に種網を設置して天然種苗を採取し、釜石や越喜来の漁師さん達が、海面に張った養殖ロープ上で育てて収穫する養殖も行われていました。そして、



糸状体

1900年代前半には天然物を上回る生産量に達しましたが、

震災で種苗採取施設や養殖施設はすべて流されてしまいました。その後一時期、種市の天然種苗採取は復活しましたが、5年以上前からマツモの養殖は再開されていません。このような事情もあり、私達の研究室では岩手県水産技術センターと協力して、マツモの人工種苗生産に関する研究に取り組んできました。

現在までに人工種苗生産技術が確立しているワカメ、コンブ類、アマノリ類(海苔です)など異形世代交代型の生活史を持つ海藻には、我々が食べる大型世代と顕微鏡サイズの微小世代の2つの体があり、室内で保存した微小世代を、人工種苗生産用の株として用います。一方、マツモは同形世代交代型の生活史を持つ海藻で、微小世代がありません。しかし、室内培養の条件下では、ワカメなどの微小世代と同様の顕微鏡サイズの体(糸状体)を形成することができます。そこで、この糸状体を保存株とした人工種苗生産技術の開発を始めました。2015年には科研究も得て、糸状体保存株の効率的な増殖、液体窒素を用いた長期凍結保存、塩素殺菌法を用いた低コストでの人工種苗生産に関する技術開発を進め、低コストで安定した人工種苗生産システム確立を目指しました。その結果、2018年には株保存から種苗作りまでを室内の安定した環境下で行った、最後の養殖工程を三陸の海で実施する養殖技術



養殖藻体

の海で実施する養殖技術

確立しました。

その後、三陸臨海教育研究センター地域連携部門の清水恵子先生を紹介して、科研究費の研究成果報告書でこの技術を知った宮城県南三陸町の建設会社(株)阿部伊組さんから、全工程を陸上で行う完全陸上養殖を实用化したいとの提案を受けました。海藻養殖に関しては素人の建設会社さんでしたので即答はできませんでしたが、しかし、新商品の開発も視野に入れた真剣なお話でしたので、清水先生とともに共同研究を実施することになりました。そして、2020年には再び科研究費を得て、糸状体保存株の増殖、種苗生産、養殖(収穫体生産)の3工程すべてを、陸上において無基質状態(附着していない状態)で、3次元的に実施する閉鎖式陸上養殖システムの開発を目的とした共同研究を開始しました。2021年には、同年10月に陸前高田市に海藻スジアオノリの陸上養殖施設を竣工した理研食品(株)さんも研究に加わりました。さらに、(株)阿部伊組さんが、この研究で収穫したマツモを使った新商品「三陸海藻バター」をリターンとしてクラウドファンディングを実施され、実用化を目指した研究に拍車がかかりました。

この共同研究で、私達の研究室が進めているのは、マツモの生物的特性に基づいた養殖技術の開発と各工程の最適条件(水温、光量、光周期など)の解明、そして、試験プラントへの保存株や種苗の供給です。前者は大学の得意分野ですが、試験プ

ラントと言っても0.5t水槽数十基や30t水槽数基のレベルなので、この対応に悪戦苦闘しています。そして、「大学は現場から遠い研究機関だ」という言葉を痛感しています。現場と繋がる非常に良い機会ですので、主要課題として取り組んでいます。

最後になりますが、私達の研究室では三陸時代から現在まで、この共同研究を始めとする三陸をフィールドとした研究が続けています。そして、地元の越喜来漁業協同組合、吉浜漁業協同組合、綾里漁業協同組合、岩手県水産技術センター、大船渡市役所の皆様や、多くの漁師さん達の協力をいただいています。この研究はまだ道半ばですが、三陸の皆様のお役に立つ成果を出せるよう進めて行きます。

学部創設50年にあたり

水産増殖学科2期生(1977卒)

西村 直也

私をはじめ三陸を尋ねて令和4年でちょうど50年になります。

京都の大谷高校在学中の3年生の夏休み、岩手県気仙郡三陸町(現在は合併して大船渡市)にある北里大学水産学部をこの目で見たくなり一人旅をしました。陸前高田にあったユースホステルを予約して京都から新幹線で東京、上野から夜行列車(急行十和田だったと思うのですが、忘れました)で早朝一関に着いたので、平泉で中尊寺と毛越寺、陸中松

川で狛鼻溪、気仙沼では大島など下調べしてた場所を観光して巡りました。次の日は朝、盛(さかり)の県南バスセンターに9時頃着きました。次の日は朝、盛(さかり)の県南バスセンターに9時頃着きました。12時まで待って崎浜に着いたのは13時頃だったと思います。帰りのバスの時間を確認したら18時までないのに驚き、取りあえず管理棟(三陸研修所)を目指して行きました。そこで偶然お会いした厚田静男先生に「学校を見に来ました」と話したところ、「大学の1年生ですか」と問われ、1年生は相模原で勉強することを初めて聞きました。「私はまだ高校3年生です」と話したら大変驚いておられました。

まだ時間があるのでどうしたものかと思案してたところ、たまたま浄土真宗東本願寺派の正源寺というお寺を見つけ思い切って訪ねてみました。そこで思いがけない事が起こりました。住職の掛川淳さんが50数年前の旧制の京都大谷高校の卒業生だったのです。まさか高校の大先輩が崎浜のお寺にいらつしゃると思いませんし、住職さんにとっても当てもなくやってきた初対面の若造が何者かは知るわけもなく、京都からたまたま訪ねてきた後輩だと知ったからは、大歓迎していただきました。

住職さんは当時三陸町の教育委員長もされていたこともあり、北里の水産学部設立準備委員の椿精一理



研究当時 4年生 理学部 魚類学

北里の水産学部設立準備委員の椿精一理

事とも面識があったため、私に是非入学するように薦めてくださいました。「入学して三陸に来た際には面倒見させてもらいますよ」との言葉も頂きました。

このような御縁のおかげで受験して入学が決まり、まず一年次に勉強する教養部のある相模原に行くことになりました。たまたま祖母の弟さんが相模大野に住んでいたもので、一年間その家で下宿をいたしました。相模原では、のちに三水会第2代会長を務めた長谷川一敏君や大内千春君と仲良くしてもらい、進級出来たのは大内君のおかげだと感謝しています。大内君は1年から3年まで北島賞、4年時には北里賞を受賞した学年一番の秀才でした。

2年次に進級し、お寺を頼って住む所も決まらずに三陸に移りました。下宿探しには幸運が重なりました。崎浜小学校に勤められていた、お寺の長女さんのご主人が大船渡の小学校の方に転勤したので、空いた寺に隣接している一軒家を大内君と二人で借りることになりました。大学4年生の時はお寺の次男さんの掛川秀邦さんが自宅の横に建てたアパートに引っ越しました。当時としては珍しい2DKの間取りでした。

お寺の掛川さん御一族にはいろいろなことで大変お世話になりました。大学4年生の時には、釜石から水産学部に優秀な学生が入ったと住職さんが嬉しそうに話していたことを覚えています。今思えば現会長の高橋明義君のことだったのだと思います。さんりく最後の年越し、4年の時に

はお寺で除夜の鐘をつかせてもらいました。下宿の部屋から眺める崎浜の海の景色は今でも心に残っています。就職するにあたり父親の知り合いの紹介で大阪の(株)大水に入社しました。大水には3期の月山稔文君や4期の調敏明君などが続き、現在も何人かの後輩が頑張っていると聞いています。50年前に、衝動にかけられた「三陸を見たい」と言う好奇心が、掛川さん御一族や同級生や先輩など、人生の掛け替えのない宝物と三陸を鏡にしてつながっていることを感じざるをえません。三陸町、そして学部へ深く感謝申し上げます。

2021年度就職ガイダンス報告

FA14期 大坪 孝志

2021年10月15日北里大学相模原キャンパスMB館にて海洋生命科学学部協力のもと三水会主催による、就職ガイダンスを行いました。当ガイダンスは、北吉直子氏(FA23)による就職活動に関する講義と、北海道北見市在住の山内創氏(FA37)、『北の大地の水族館』(※館長)に北海道からZOOM講演して頂きました。受講生は100名を超え、彼らの真剣な眼差しが印象的でした。



就活対策を主に指導するのは教育ネットワーク運営者、北吉講師。会社面接へ向けた心構えと準備、就職

後の転職ケース、その場合についての(現実を見据えた)アドバイス、厳しい指導の言葉から北吉講師の後輩達への想いが伝わってきます。彼ら学生達が志望する仕事を獲得してもらうために、特にこのコロナ禍による企業の求人への影響を鑑みた貴重なアドバイスだったのでではないでしょうか。

そして水族館館長として北国の厳しい自然環境の大地に住む魚達の逞しさと美しさを多くの方々に伝えることを使命とし、またその壮大な大自然に身を置きながら、ご自身の選んだ生き方を謳歌する山内講師の魅力がお話を通して多くの学生達に伝わったのではないのでしょうか。隅で視聴していた私自身もすっかり魅了されました。

講師お二方からの貴重な言葉を学生達がどのように受け止め活かしてくれるのか、とても楽しみです。

なお今回のZOOM講演ですが、すでに三水会の皆様も会社やプライベートでご活用され利便性を実感されているかと思えます。山内氏の講演映像を視聴し、個人的な話になりますが、9年ぶりですが、面々とお会したいと切に願う小学生です。



さて学生達は、今般の新型コロナウイルスによる経済ダメージと社会

環境の大きな変化の中、ただならぬ大海へ船出しようとしています。その先にどのような未来が待ち受けているのでしょうか。少し先を歩く我々ですら彼らに説明することが難しいのではないのでしょうか。

幾千年も前、ポリネシア人の祖先にあたるラピタ人が鳥影も見えない大海原に漕ぎ出す瞬間の心持は一体どのようなものだったのでしょうか(ちよつと極端か?) 私には想像がつかみません。しかし挫折絶望を繰り返しながらも彼らは南太平洋に浮かぶ島々を次々に発見上陸し、しっかりと生活の根を張り彼らの文化を今日まで継承しています。当時の冒険者の勇氣と逞しさを、これから我が校を巣立っていく若者達に重ね、また開拓者として新しい時代を切り開いていく後輩達の姿を想像し私は心から彼らにエールを送りたいと思います。

そして三水会の皆様に、これからも綿々と続く母校から巣立って行く若者達を応援して頂きたくお願いを申し上げます。

今回8期生の内藤文隆先輩が長野県でこだわりを持ち手塩に掛けた無農薬米(お世辞抜きにうまいのです!)、そして大阪で衣料会社を経営される13期生の源裕次先輩におしゃれな巾着を作っていただきそれらをお土産として配ったところ学生さん達皆さん大いに喜んでいました。私もあの巾着が欲しかったなあ。

※山内創さんが館長として勤める水族館は「北の大地の水族館」で検索。北海道旅行の折はぜひ立ち寄り寄って館長に声をかけてみてください。

“ 掲 示 板 ”

■ 2022年度三水会定期総会のご案内

下記により2022年度三水会定期総会を開催します。

代議員はもとより一般会員も出席できますのでご参加ください。

開催日時：2022年5月21日（土）午後3時～（予定）

開催場所：北里大学相模原キャンパスMB号館2階講義室

（注）感染症等の影響により定期総会は中止になる可能性があります。

詳細につきましては三水会ホームページを、ご覧ください。

また、開催場所は大学の都合により変更される場合がありますので、ご参加の方は下記の三水会事務局までご確認ください。

TEL：0120-873-135 <http://kitasato-sansuikai.jp/>

- 議 事
- 1 2021年度事業報告及び収支決算報告
 - 2 2021年度監査報告
 - 3 2022年度事業計画及び収支予算
 - 4 その他

* 総会終了後、講演会を予定しています。

■ 北里大学海洋生命科学部創立50周年記念事業募金

下記のとおり募金を行っております。できるだけ多くの卒業生から御芳志を賜りたくお願い申し上げます。

募金委員長 高橋明義（三水会会長 5期生）

- 目的
- （1）学部創立50周年記念誌の作成（2022年度）
 - （2）学部創立50周年記念式典の開催（2022年度）
 - （3）相模原キャンパス共有機器等の更新
 - （4）三陸臨海教育研究センター施設設備、機器等の更新

募集期間2021年1月1日～2023年3月31日

お問い合わせご連絡先

学校法人北里研究所法人本部 総務部企画課

〒108-8641 東京都港区白金5-9-1

TEL：03-5791-6479 03-5791-6451

FAX：03-3444-2530

E-mail：kifu@kitasato-u.ac.jp



■ 井田名誉教授の瑞宝小綬章受賞と朝日田教授の学校法人北里研究所常任理事就任お祝い会のご案内

日 時：令和4年6月26日（日曜日）PM12：30～2時間

会 費：10000円/人 夫婦参加者：18000円 子供・学生：2000円/人

場 所：サッポロビール園千葉工場

住 所：船橋市高瀬町2 TEL：047-436-4388

アクセス：JR津田沼駅から11：45分発の無料シャトルバス

JR新習志野駅から12：00分発の無料シャトルにご乗車ください

東京駅から津田沼駅まで総武快速線で約30分、東京駅から新習志野駅まで京葉線で約35分です。

参加申し込み・問い合わせ：八井田 090-8802-5401 越川 090-2339-4062まで

編集後記

今年も新型コロナオミクロン株で始まり、第6波の波に襲われました。そしてトンガの海底火山の噴火によりトンガが大変な災害に遭いました。さらにこの噴火による津波は日本にも及び東日本大震災以来の漁業被害、港湾被害をもたらしました。会員の皆様の中にも被害に遭われた方がいらっしゃるかもしれません。この場を借りてお見舞い申し上げます。

三水会の事業も2年間に及ぶコロナ禍で活動は思うに任せませんが、ホームページやこの会報を通して会員の皆様とのつながりを保っていきたいと思っております。コロナの間隙を縫って就職ガイダンスなど一部の事業を行っております。今後も皆様の活動をホームページや会報で紹介しながらコロナ終息までは新たな形の親睦の輪を広げていければと思います。